

# スコットランドの実習生と太い絆を築く

住友電工は現在、スコットランドに建設中の海底ケーブル工場の垂直立ち上げに向け、現地から13人の実習生を茨城製作所みなと工場に招へいしている。そこには日本国内での「内なるグローバル経営」の姿があると聞き、本誌編集長・佐藤真樹が取材に向かった。(2月27日)

## 最先端の海底ケーブル工場を

脱炭素社会の実現に向け、世界的に再生可能エネルギーの導入が活発化。欧州では、国と国とを結ぶ電力連系線の建設が進められており、関連する電力ケーブルの需要が急速に拡大している。中でも英国は2050年までに、スコットランドは2045年までに、それぞれ温室効果ガス排出量実質「ゼロ」達成をめざして、北部の洋上風力で発電した電力を消費地の南部に送る電力連系線の早期整備が求められており、電力ケーブルの最大需要地の一つと見込まれている。



直流電力海底ケーブル

住友電工では独自の材料技術により、他社製品よりも高温で運用できる『直流電力ケーブル』で英国とベルギーを結ぶ高圧直流送電システム「NEMOリンク」を納入・完工。2019年の送電開始以来、世界初にして最高電圧(400kV)による唯一の直流連系線として無事故で運用されている。そうした信頼性と、導体のサイズダウンによるコスト低減のユーザーメリットや環境負荷軽減の技術的優位性により、2020年にドイツでCorridor A-Nordプロジェクト、2021年には英国～アイルランド間の高圧直流送電システム(Greenlink)など、受注を拡大している。

こうした実績が再生可能エネルギー活用やグリーン社会の発展につながると評価する英国政

府の後押しもあり、2023年に同社単独でスコットランド・ハイランド Nigg 港において最先端の海底電力ケーブル工場 Sumitomo Electric U.K. Power Cables Ltd.(以下、SEUK-CL)の設立を発表、2024年5月から建設工事が行われている。

2025年12月には英国送電事業者より、英国の南東部ケント州と東部サフォーク州を結ぶ140キロメートルの高圧直流ケーブルプロジェクト「Sea Link」の受注を獲得、SEUK-CLでの製造を予定している。

新工場は2026年9月生産開始予定。現地では200人以上の雇用創出や洋上風力発電のサプライチェーンの構築などへの期待が高まっている。2023年8月には、英国チャールズ国王が工場建設予定地に隣接する Nigg 港を視察された。



SEUK-CL 新工場の完成予想図



スコットランド新工場予定地と Sea Link 敷設ルート